

## カンボジア 村の幼稚園 子どもたちの成長を支える 「ゆでたまご募金」



■「認定NPO法人幼い難民を考える会」がカンボジア農村地域ですすめる「村の幼稚園事業」。通ってくる子どもたちの大きな楽しみはおやつです。毎日のクッキー等に加え、栄養補助として月に2回、ゆで卵と豆乳のおやつを食べています。



### ■なぜ、ゆで卵？

- ①お菓子を配ると自宅に持ち帰り家族と分けて食べることもあるため、その場で食べるゆで卵はその子自身の貴重なたんぱく源となります。
- ②ゆで卵をむく行為が「手の訓練」になります。
- ③殻を用意した皿に入れ友達と「楽しくきれいに食べる習慣」を身につけることができます。

■WE21 ジャパン厚木の今年度「貧困なくそうキャンペーン」はこの「ゆで卵募金」に取り組み、**41,070円**のご寄付がありました。(期間：10/1～31)  
お母さんと来店された小さなお子さんが持参したお金を募金箱に入れて下さったり、職場で声かけし集めて下さった方など、たくさんのご協力を頂きました。



### ■ゆで卵は幼稚園の先生が準備

一人一個、人数分の卵を市場で買い、茹でて幼稚園に持って行きます。

### ■必要な経費は？

10か所の村の幼稚園/約300名の子ども達に「毎日のクッキー、月に2回のゆで卵と豆乳のおやつを提供するために必要な額は年間約73万円。一人一ヵ月約136円が必要です。  
(2021年度実績)

## ウクライナ支援



平和を祈る折紙作品の寄付

### ■昨年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻。

早々に設置した店頭募金や呼びかけにご協力を頂き、現地で活動する「NPO法人アドラジャパン」に下記金額を寄付致しました。ウクライナの人々に一日も早く平和が戻ることを祈るばかりです。

・店頭募金	： 47,105円	}	<b>267,005円</b>
・個人からの寄付金	： 189,900円		
・WE21厚木緊急支援金	： 30,000円		

(2022/10月末現在)



■東日本大震災から12年。  
被災地の情報を知る機会は大変少なくなりました。  
特に、原子力発電所事故後に被爆で苦しむ福島の人々の現状を知る機会ほとんどありません。

■事故後、小児甲状腺がんの手術を受けた小学生達は成長し10代～20代を迎え、日常的な健康不安に加え就職や結婚等、将来への不安も抱えています。  
そんな若者や家族に寄り添い、活動を続けている同会事務局長の千葉さんから、リモートでお話を伺いました。(2019年度からの支援先)

「あじさいの会」は郡山を拠点に活動をしている小児甲状腺がん患者と家族・支援者による会です。  
<主な事業>……………設立：2016年/12月

**1 カフェ事業**

お茶会・料理教室・手作り味噌の会・手芸・他

**2 アウトリーチ事業**

支援物資配達を通しての情報交換や支援医師との交流

**3 調査・アドボカシー事業**

甲状腺がんに関する各種学会、講演会への参加  
国会議員や専門家との意見交換・要望書・意見書

甲状腺がん支援グループ  
**あじさいの会**  
リモート報告会  
2022年12月14日

「有ったことを  
無かったことに  
されようとしている」



「なぜ私のがんになったのか知りたいのです」  
沈黙を破り、東京電力に若者6人が損害賠償を求めて、初めて集団訴訟を起こしました。  
2022/5/26

報告会最後は次の様な言葉で締めくくられていました。

歴史から、原発事故から学んでこそ  
健康な子どもたちの明るい未来があります  
福島の子どもの甲状腺がん問題に  
目を向けてください  
なにかおかしいことが行われていないかどうか  
誰かが犠牲にされていないか  
関心を持って、注視してください

ありがとうございます「厚木ぐるっと」さん



厚木西高  
入口信号そば

2022年4月より「一般社団法人厚木ぐるっと」さんのご協力で、同会が市内森の里地区で運営する“ぐるっと広場”内に、寄付品の受け取り拠点“WEショップステーション”（対象は森の里在住者限定）を開設頂きました。  
おかげさまで活動を知って頂く機会が増え、新規寄付も増えました。  
一人の声掛けがきっかけで広がった今回の取り組み。  
今後も地域との繋がりを大切に活動に活かしたいと考えています。

**WEショップ 厚木1号店**  
厚木市中町3-18-5 ☎ 046 (296) 2555  
Email:we21atsugi@mou.ne.jp  
■ 営業時間: 10:00~16:00  
■ 定休日: 日曜日・祝日

